



ベトナムの風景（中）

首都ハノイから飛行 市ダナンに向かう。所
機で中部最大の商業都 要時間は一時間十分。 際貿易港として栄え、

ベトナム戦争中はアメリカ軍の基地があったところである。



ダナン大聖堂

フランスがベトナムを植民地化する際、最初に占領した街である。その後、ハノイも占領され、一八七四年からフランスの植民地支配が始まった。それに付随し、ハノイ、サイゴン（現ホーチミン）、ダナンにカトリック教会が建てられた。

南アメリカ、アフリカにも同じことが言えるが、欧米の植民地政策の一環としてキリスト教の布教がなされた面もあり、キリスト教を信じる者としては複雑な気持ちになる。



サイゴン大聖堂

宗教は人を救うためのものである。日曜日の夕方、ダナン大聖堂を訪ねた。ミサのため大勢の人が集まっている。現地ガイドは「共産化されても信仰は自由です」と言う。一九五四年、ベトナムが南北に分断されて北ベトナムが共産主義体制になった際、北ベトナム側に住んでいたカトリック信者約八十万人は南に移住した。さらに一九七五年、ベトナムが共産主義体制で統一された際にはカトリック信徒を中心

に百万人を超える人たちがポートピープルとしてベトナムから脱出した。今、本当に信仰の自由が保障されているのだろうか。



教会前で記念撮影

ではなく、教会をバックに記念写真を撮るためらしく、カメラマン以外、誰もいない。「コングラチュレーション」と声を掛けると、一緒に写真を撮るようになった。共産化される前と同じように教会があることと、本当の信仰の自由が保障されていることは別問題である。

数年前、共産主義体制の中国の神父と会った。神父であるが故に刑務所に長く入れられたり、亡命を余儀なくされるなど大変だと聞かされた。ベトナムの信仰の自由が本当であるようにと願いながら新郎新婦と別れたのである。（元山口放送取締役ラジオ局長）